

アクモスグループの新鮮情報をお伝えするIRマガジン

ACMOS HIGHWAY

アクモス ハイウェイ

Top Message

個性豊かなグッドカンパニー実現のために

特集

アクモス30年の歩み

アクモスジャンクション

標的型攻撃メール対応訓練ソリューション

消防・防災ソリューション

アクモス 株式会社

証券コード：6888

2021
Vol.18

アクモスグループは、お客様に感動していただける
プロフェッショナルなサービスを提供いたします。

アクモスグループはアクモス株式会社および子会社3社で構成され、各社の連携ならびにパートナー企業との協力により、お客様のニーズに応えるITソリューション、ITサービスを提供しています。持続的な成長の実現を目指して、輝くICTサービスで社会の向上に貢献するべく活動してまいります。

ITソリューション事業



お客様の情報に関わるITソリューションを提供
 ・一般企業の業務システム
 ・自治体のITソリューション
 ・宇宙関連システム など



安心安全な社会を支える製品・サービスを提供
 ・消防通信指令システム
 ・防災行政無線戸別受信機管理システム など



ITインフラを構築し、安全かつ確実に稼働させるトータルソリューションを提供
 ・サーバ環境や大規模ネットワークの構築・保守
 ・24時間365日対応のシステム運用監視 など



病院内システムの導入から運用管理までをサポート
 ・コンサルティング
 ・システム構築
 ・運用管理 など



お客様の情報を守るための製品・サービスを提供
 ・標的型攻撃メール対応訓練ソリューション
 ・セキュリティ診断 など



地図に関わる情報やシステムの提供
 ・地理情報システムの販売・開発受託
 ・デジタル地図データの制作 など

ITサービス事業



お客様の業務効率化とコスト削減を実現し、ビジネスプロセスを最適化
 ・ストレスチェック関連サービス
 ・コールセンターや事務局の運営 など



お客様の情報に関わるITサービスを提供
 ・マークシート
 ・アンケート集計
 ・試験採点や選挙集計 など

長期ビジョン2025

私たちは輝くICTサービスで社会の向上に貢献します。

目指すべき方向性

- 1.アクモスグループは、きらりと光るICTサービスを提供して持続的な成長を実現します。
- 2.アクモスグループは、個性豊かな企業集団を目指します。

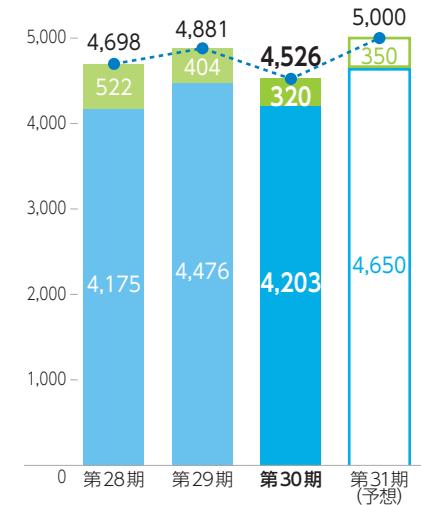
長期数値目標

株主資本利益率(ROE)
15%

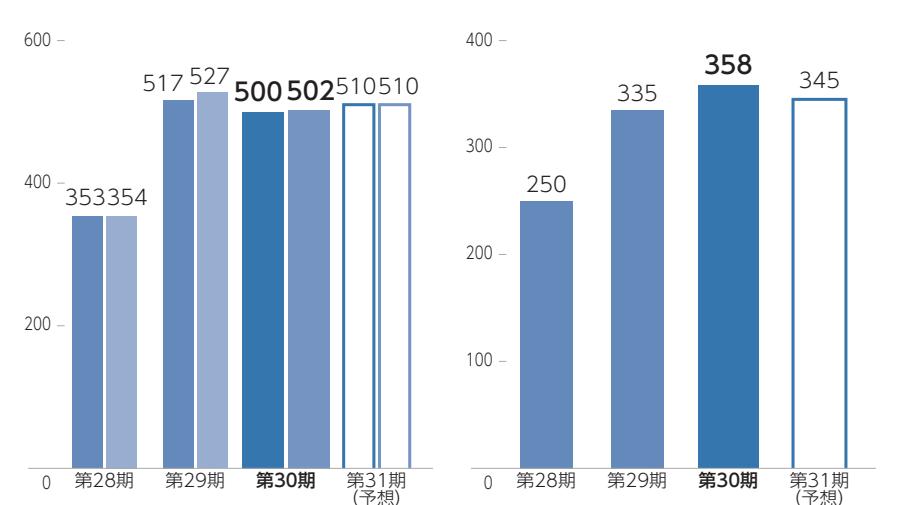
時間当たり付加価値
5,000円

当社グループは、2016年7月に制定した「長期ビジョン2025」の達成を目指し、3年おきにより具体的な計画である中期経営計画を策定して推進しています。

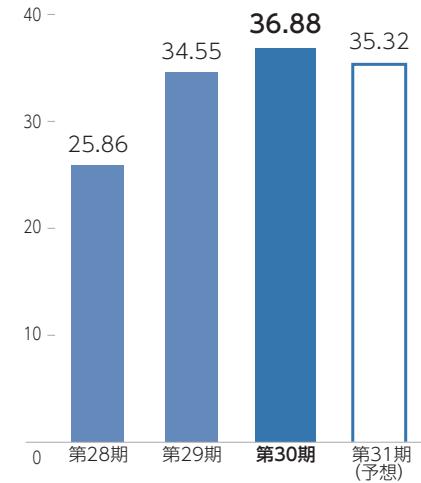
売上高 (単位:百万円)
ITソリューション事業 ITサービス事業 連結



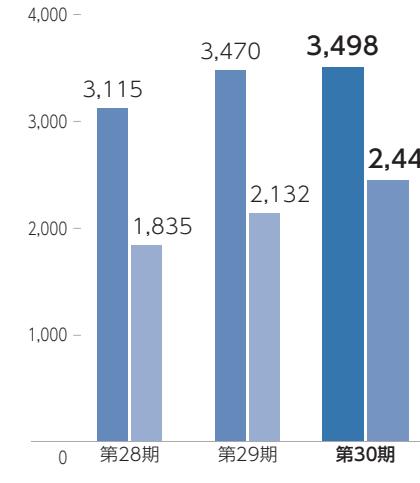
営業利益 経常利益 (単位:百万円) 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



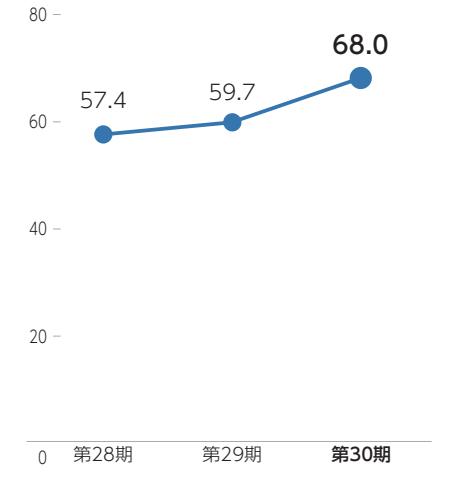
1株当たり当期純利益 (単位:円)



総資産 純資産 (単位:百万円)



自己資本比率 (単位:%)



※自己資本比率=自己資本(純資産-新株予約権-非支配株主持分)/総資産



代表取締役会長 兼 CEO
飯島 秀幸

代表取締役社長 兼 COO
清川 明宏

個性豊かなグッドカンパニー実現のために ～ 企業価値の向上を図り、さらなる「発展」を目指す ～

創立30周年を迎えて

上場25周年、その先の未来に向けて

アクモスは、おかげさまで創立30周年を迎えました。これもひとえに、みなさまのご支援のたまものと心より感謝申し上げます。

アクモスの30年の歩みは決して平坦ではなく、いくつかの業態転換を経て苦難の連続でした。半導体のファブレスメーカーとして創業し、1996年に当時の店頭特則市場に株式公開を果たしたものの新製品開発が思うように進まず、厳

個性豊かなグッドカンパニーへ

Good Business

専門特化した製品・サービスの創出やアライアンス活用により、お客様が求めるICTサービスを提供し、社会の向上に貢献する

Good Value

安定的収益を確保しながら、持続的な成長を実現する

Good Members

社員と共に成長し、幸せを追求する

しい業績が続きました。そして、1999年に企業組織再編制度が法制化されたのを契機に、上場会社として日本で初めての株式交換によりIT会社を子会社化しました。翌年には純粋持株会社化し、M&Aによる成長戦略のもと10社以上を子会社化してきました（現在の子会社は3社）。

業種をITと人材サービスに限定した子会社化でしたが、ガバナンスの基本である仕組み作りが不足し、大変苦しい状態が続きました。その後、業種をITに絞り込み再スタートしたものの、収益力不足が大きな課題となりました。試行錯誤の末、「収益力向上」と「社員参加」の両方を達成するには京セラ株式会社の「アメーバ経営※」が最適だという信念のもと、6年前からアメーバ経営を参考に構築した部門別採算制度ウィングシステム（以下「ウィングシステム」）の導入を進め、現在はグループ会社にも浸透しつつあります。

アクモスの再構築は達成しつつありますが、目標は「個性豊かなグッドカンパニー」になることです。そのための3条件「Good Business」「Good Value」「Good Members」を達成するためには、さらなる一層の努力と工夫が必要です。2021年12月には株式公開をしてから25周年を迎えます。上場25周年、そしてその先の未来に向けて、人財育成に力を注ぎ、きらりと光る会社を目指して歩み続けていきます。

※「アメーバ経営」は京セラ株式会社の登録商標です。

第30期のご報告

効率的な業務対応を進め、利益は当初予想を上回る

当社第30期は、中期経営計画Ⅱ（2019/07-2022/06）の2年目として「発展」をテーマに専門分野を深耕し、新サービスでお客様を獲得する個性豊かなグッドカンパニーを目指してまいりました。

当社グループの事業を取り巻く環境として、人手不足や働き方改革、防災や情報セキュリティ強化といった社会的な課題の解決のため、また依然として猛威をふるう新型コロナウイルス感染症対策として、ICT活用のニーズが増しております。

こうした環境のなか、グループ各社は専門特化分野を強化する方針のもと、テレワーク需要増に伴い重要となる「情報セキュリティ関連ソリューション」や自然災害被害の未然防止に寄与する「消防・防災関連ソリューション」などの製品・サービスの開発を推進してまいりました。また、コロナ禍においても収益力の維持に努め、「時間当たり付加価値」をKPIとするウィングシステムを活用した付加価値向上をグループ全社の共通課題として取り組んでまいりました。

前期における入札案件などの一時的な売上増加要因がなくなったことにより売上高は減少したものの、人員の戦略的ローテーションや付加

価値向上への取り組みが成果を上げたこと、当社の本業の技術を活用してテレワークを積極的に推進し、効率的な業務対応を進めたことから、営業利益以下の利益項目において当初の予想を上回る実績となりました。

以上の結果、第30期の連結業績は、売上高4,526百万円（前期比7.3%減）、営業利益は500百万円（前期比3.3%減）、経常利益は502百万円（前期比4.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は358百万円（前期比7.1%増）となりました。経営指標として掲げている営業利益率は11.1%（前期10.6%）、株主資本利益率（ROE）は16.1%（前期17.4%）、時間当たり付加価値は3,622円（前期3,730円）となりました。

新型コロナウイルス感染症については、まず感染拡大防止策として、引き続き社員へのマスク着用やうがい・手洗いの徹底、テレワークの活用、会議や研修等でのリモート対応などの取り組みを継続しております。また、研修の参加者や遠隔地への出張者には、独自にPCR検査を実施し、お客様や社員の感染リスクを低減するよう努めております。

業績への影響としては、第29期に引き続きITサービス事業において集合型イベントの中止や延期により、それに付随するアンケートや試験事務局の業務が減少いたしました。ITソリュー

ション事業では当初の計画立案時点の想定より若干軽微でありました。



茨城本部入口には検温機能がついた入退室管理システムを設置



PCR検査用の検体採取キット

第31期の展望

Withコロナ下で営業や採用を推進し、収益の確保を図る

第31期は中期経営計画Ⅱ（2019/07-2022/06）の最終年として引き続き、専門特化分野を強化して収益力の向上を図り、目標達成に邁進してまいります。

第31期は既に受注している官公庁案件の計上が見込まれるほか、厳しい環境においても着実な採用活動を進めたことによる人員の増加に伴う増収を見込んでおります。

在宅勤務などで行動が制限されるなか、Webマーケティング活用やグループ各社の強みを武器に営業を推進して業務量の確保に努めるとともに、Withコロナ下での働く環境の整備や人材の採用・育成を進めてまいります。そして、ウイングシステムの活用により付加価値をさらに向上させ、安定的な高収益企業を目指してまいります。

以上のことから、第31期の連結業績は、売上高5,000百万円（前期比10.5%増）、営業利益510百万円（前期比1.9%増）、経常利益510百万円（前期比1.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益345百万円（前期比3.9%減）を予想しております。経営指標については、営業利益率10%、株主資本利益率（ROE）13%、時間当たり付加価値3,800円を目指して進んでまいります。なお、新型コロナウイルス感染症の影響などにより予想は変動する可能性があります。業績予想の修正が必要な場合には、速やかに開示いたします。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社では、株主のみなさまに対する安定的な配当の実現を中長期的な重点課題として位置付けており、配当方針は連結の親会社株主に帰属する当期純利益の30%以上を目標としております。この配当方針に基づき、第30期の期末配当は1株当たり11円（配当性向29.8%）とさせていただきます。第31期の期末配当は、普通配当11円、本年12月に株式公開25周年を迎えることから記念配当2円をあわせて1株当たり13円（配当性向36.8%）を予定しております。

上場25周年とその先の未来に向けて、グループ社員一丸となって個性豊かなグッドカンパニー実現のために企業価値の向上と持続的な成長を図り、さらなる発展を目指して進んでまいります。株主のみなさまには、引き続きご理解とご支援を賜りますよう深くお願い申し上げます。

	第29期	第30期	第31期（予想）
売上高	4,881百万円	4,526百万円	5,000百万円
営業利益	517百万円	500百万円	510百万円
経常利益	527百万円	502百万円	510百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	335百万円	358百万円	345百万円
営業利益率	10.6%	11.1%	10%
株主資本利益率（ROE）	17.4%	16.1%	13%
時間当たり付加価値	3,730円	3,622円	3,800円

ACMOS INC. 30th Anniversary 1991 → 2021

アクモス30年の歩み

2021年8月、アクモスはおかげさまで30周年を迎えました。
これまでの歩みを振り返るとともに、これから先のさらなる成長を目指して進んでまいります。

創業期

1991年に設立、1994年に半導体事業を開始、1996年の株式公開を経て、2000年に純粋持株会社へと移行しました。

1991年 8月

設立。飯島秀幸が代表取締役役に就任

1994年 2月

商号をアクモス(株)に変更
半導体事業を開始



1996年12月

株式公開
(日本証券業協会店頭特則)



1999年 5月

経営戦略として連邦経営（株式交換等によるベンチャー企業のグループ化と当社の持株会社化）の方針を決定

2000年 4月

既存事業を子会社化。純粋持株会社となる

2003年 6月

半導体事業より撤退

IT事業を営むグループへ

2008年に茨城ソフトウェア開発株式会社を合併し、ITソリューション&ITサービスを主要事業とするグループへ。

2005年 9月

茨城ソフトウェア開発(株)を完全子会社化

2008年 1月

茨城ソフトウェア開発(株)を合併
純粋持株会社から事業持株会社へ移行



2009年 3月

グループの新しい
シンボルマークを制定



2010年12月

千代田区神田小川町に移転
(現、本社所在地)

2011年 3月

東日本大震災で被災。
茨城県東海村の事業所が一部損壊(現、茨城開発センター)

長期ビジョン2025を策定し、2025年のゴールを目指す

2016年には長期ビジョン2025を策定し、ICTサービスで社会の向上に貢献するべく、専門特化とさらなる収益力向上にむけた取り組みを進めています。

2012年12月

自社製品・サービスの共通ブランド名称を「SYMPROBUS」とし、
消防通信指令システム「SYMPROBUS Fシリーズ」を発表



2013年 7月

市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ市場に上場

2015年 7月

部門別採算制度「ウィングシステム」導入

2016年 8月

アクモスグループの進むべき方向性を定めた
「長期ビジョン2025」発表

2016年 9月

飯島秀幸が
代表取締役 会長 兼 CEO、
清川明宏が
代表取締役 社長 兼 COO に就任



監査等委員会設置会社へ移行

2017年 4月

防災行政無線戸別受信機管理システム
「SYMPROBUS-ReceiveMan」提供開始

2017年 6月

標的型攻撃メール対応訓練ソリューション
「SYMPROBUS Targeted Mail Training」提供開始

2020年 3月

水戸にオフィス開設 (現、茨城本部)

2020年 6月

アクモスグループ連結で過去最高益を達成

■ 連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第29期 2020年6月30日	第30期 2021年6月30日
資産の部		
流動資産	3,035,111	3,068,587
固定資産	435,428	429,727
有形固定資産	195,387	185,001
無形固定資産	65,604	49,688
投資その他の資産	174,435	195,037
資産合計	3,470,539	3,498,314
負債の部		
流動負債	1,329,448	1,051,029
固定負債	8,624	6,086
負債合計	1,338,073	1,057,116
純資産の部		
株主資本	2,066,326	2,349,520
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,176,282	1,201,533
利益剰余金	250,727	502,963
自己株式	△ 53,933	△ 48,226
その他の包括利益累計額	7,131	28,132
非支配株主持分	59,008	63,545
純資産合計	2,132,466	2,441,198
負債純資産合計	3,470,539	3,498,314

Point 1 資産の部

資産は、前期末に比べ27百万円増加しています。

流動資産の増加の主な理由は、現金及び預金の増加60百万円、受取手形及び売掛金の減少18百万円、商品の減少13百万円があったことによるものです。

固定資産の減少の主な理由は、投資その他の資産の増加20百万円、有形固定資産の減少10百万円、無形固定資産の減少15百万円があったことによるものです。

Point 2 負債の部

負債は、前期末に比べ280百万円減少しています。

流動負債の減少の主な理由は、買掛金の減少47百万円、短期借入金の減少45百万円、未払金の減少74百万円、未払費用の減少21百万円、未払法人税等の減少33百万円があったことによるものです。

固定負債の減少の主な理由は、長期借入金の返済8百万円があったことによるものです。

Point 3 純資産の部

純資産は、前期末に比べ308百万円増加しています。

純資産の増加の主な理由は、親会社株主に帰属する当期純利益358百万円、譲渡制限付株式報酬による資本剰余金の増加25百万円、その他有価証券評価差額金の増加21百万円、配当金の支払い106百万円によるものです。

■ 連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	第29期 (自 2019年7月 1日 至 2020年6月30日)	第30期 (自 2020年7月 1日 至 2021年6月30日)
売上高	4,881,481	4,526,256
売上原価	3,174,181	2,866,575
売上総利益	1,707,300	1,659,680
販売費及び一般管理費	1,189,891	1,159,322
営業利益	517,408	500,358
営業外収益	12,235	3,838
営業外費用	2,064	1,752
経常利益	527,579	502,443
特別利益	—	—
特別損失	12,410	—
税金等調整前当期純利益	515,168	502,443
法人税等	168,324	135,989
当期純利益	346,844	366,454
非支配株主に帰属する当期純利益	11,689	7,524
親会社株主に帰属する当期純利益	335,155	358,930

Point 連結損益計算書

新型コロナウイルス感染症の影響が当初の想定より若干軽微だったことや、ITソリューション事業において、公共系の開発案件や消防通信指令システムの定期改修業務などが堅調に推移したことにより、売上高4,526百万円（前期比7.3%減）、営業利益500百万円（前期比3.3%減）、経常利益502百万円（前期比4.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益358百万円（前期比7.1%増）となりました。

■ 連結包括利益計算書

(単位：千円)

科 目	第29期 (自 2019年7月 1日 至 2020年6月30日)	第30期 (自 2020年7月 1日 至 2021年6月30日)
当期純利益	346,844	366,454
その他の包括利益	△ 3,826	21,000
包括利益	343,018	387,455
(内訳) 親会社株主に係る包括利益	331,328	379,931
非支配株主に係る包括利益	11,689	7,524

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	第29期 (自 2019年7月 1日 至 2020年6月30日)	第30期 (自 2020年7月 1日 至 2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	452,913	290,479
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 102,178	△ 26,430
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 85,040	△ 203,651
現金及び現金同等物の増減額	265,693	60,397
現金及び現金同等物の期首残高	1,974,908	2,240,602
現金及び現金同等物の期末残高	2,240,602	2,300,999

Point 連結キャッシュ・フロー計算書

(営業活動によるキャッシュ・フロー)
法人税等の支払額194百万円、仕入債務の減少47百万円があった一方、たな卸資産の減少21百万円、税金等調整前当期純利益502百万円、資金の移動を伴わない減価償却費47百万円があったことによるものです。
(投資活動によるキャッシュ・フロー)
有形固定資産の取得による支出12百万円、無形固定資産の取得による支出14百万円によるものです。
(財務活動によるキャッシュ・フロー)
短期借入金の純減額45百万円、長期借入金の返済による支出49百万円、配当金の支払額105百万円があったことによるものです。

アクモス株式会社

標的型攻撃メール対応訓練ソリューション 大同生命保険株式会社「標的型攻撃メール対応訓練サービス」に採用

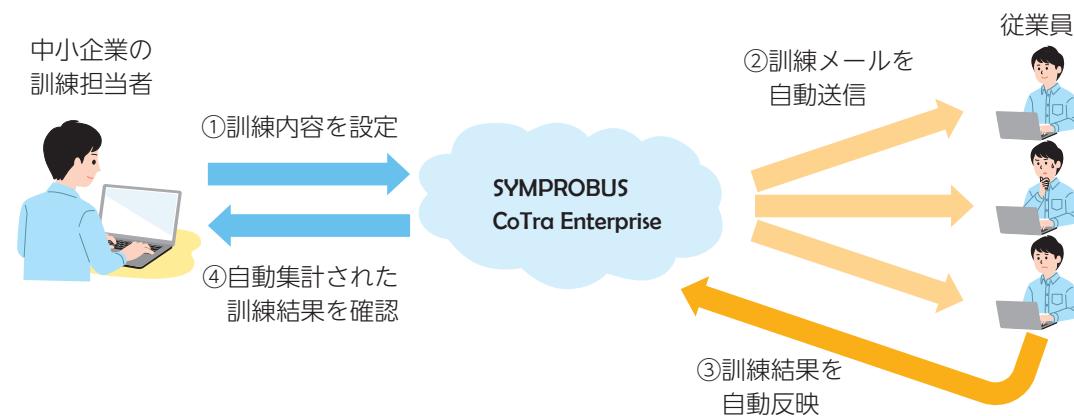
アクモスの標的型攻撃メール対応訓練ソリューションSYMPROBUS CoTra Enterpriseが、大同生命保険株式会社の提供する中小企業向け「標的型攻撃メール対応訓練サービス」に採用されました。

SYMPROBUS CoTra Enterpriseは、継続的に柔軟な訓練を実現できるサービスです。訓練期間を半年、一年などの長期に設定することができ、訓練メールのランダム配信や分散配信、グループ単位での管理が可能です。

大同生命様の「標的型攻撃メール対応訓練サービス」では、大同生命様の契約企業やご紹介を受けた企業が、SYMPROBUS CoTra Enterpriseの標準サービスを大同生命様専用プランでご利用いただけます。

新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワーク普及拡大や社会全体のデジタル・トランスフォーメーションが進みつつあるなかでサイバー攻撃も増加しています。アクモスでは今後も、標的型攻撃メール対応訓練ソリューションを通じて、お客様のメール環境を安心してお使いいただくためのサポートをしていきます。

「標的型攻撃メール対応訓練サービス」 訓練の流れ



アクモス株式会社

消防・防災ソリューションの取り組み

当社では、安心・安全な社会づくりを支えるため、消防・防災分野で自社製品・サービスを提供しています。各分野の取り組みについて、消防防災ソリューション部を率いる戸田部長に話を聞きました。

消防分野では、消防通信指令システム（SYMPROBUS-Fシリーズ）の開発、構築を行っています。消防本部／消防署にかかってくる119番通報を受け付け、災害の場所や種類を特定すると同時に、適切な車両を自動的に選定して出動指令をかけるためのシステムです。消防・救急隊が一秒でも早く現場に到着できるように、操作性や処理速度をできる限り高めた設計を行っています。また、24時間365日安心して運用いただけるように、機器の選定や障害に備えた多重化、ソフトウェア開発ではレビューや試験を入念に行い、システム全体の信頼性向上にも努めています。

防災分野では、消防通信指令システムで培ったGIS（地図情報システム）や映像システムの知識と技術を活用し、自治体の防災行政無線を各家庭で受信するために設置される戸別受信機を管理するシステム（SYMPROBUS-ReceiveMan）、災害対策室や通信指令室において各種映像を共有するためのマルチディスプレイシステムなどの開発、構築を行っています。

今後も、社会に求められる消防・防災関連のシステムの探究、開発を行うとともに、様々な分野への応用展開を図り、お客様に満足していただけるシステムを提供してまいります。



消防通信指令システムを納入した消防本部



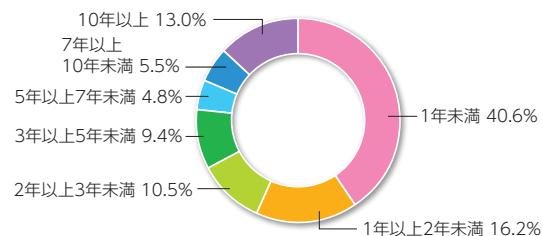
消防防災ソリューション部 部長 戸田 淳一

アンケート結果報告

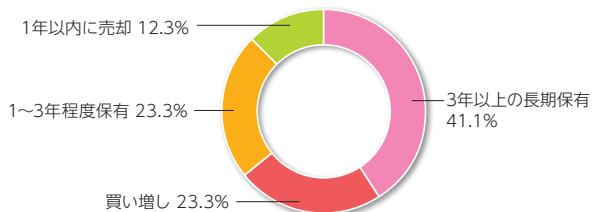
2020年秋発行のアクモスハイウェイに同封の「株主さまアンケート」につきまして、多くのみなさまから貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

アンケート実施概要
 実施期間：2020年9月24日～2020年10月31日
 ご回答いただいた株主さま 452名 (全体の6.3%)

Q1 ▶▶▶ 当社の株式の保有期間



Q2 ▶▶▶ 今後の当社株式の保有についての方針をお聞かせください



Q3 ▶▶▶ 前回の「アクモスハイウェイ」で興味をもたれた記事をお選びください (複数回答可)



株主さまからのご意見

- ・社員を大切にそしてさらに飛躍できる会社になって下さい。(70代男性)
- ・大変な時期ですが、アクモスと社員の方の成長とがんばりに期待しています。(30代男性)
- ・事業価値を損なわないよう上手にIRを出して下さい。期待しています。応援しています。(50代男性)

アンケートご協力をお願い

当社では、株主のみなさまとのコミュニケーション充実を図るため、毎年、株主さまアンケートを実施しています。いただいたご意見・ご要望は、経営やIR活動の参考とさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

アンケート締切日：2021年10月31日 (消印有効)

社会貢献活動報告

当社が募金活動による寄付を通じて活動を支援させていただいている特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンからレポートをいただきました。

ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) 南スーダン支援レポート

いつもご支援を賜り、誠にありがとうございます。PWJは、国内避難民キャンプや帰還民受け入れホストコミュニティにて井戸やトイレの整備、給水衛生施設の整備、衛生普及活動などを実施しました。またサバクトビバッタの襲来による被害への農業支援として農業研修や農具種子配布を実施、新型コロナウイルス感染症対策支援として病院施設内の給水・トイレの整備や衛生キットの配付を行いました。南スーダンの人々のため、PWJは今後も支援を届けてまいります。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス感染症対応チームによる衛生啓発活動



給水施設に並ぶ国内避難民の人びと

会社概要 / 株式の状況

■ 会社の概況 (2021年6月30日現在)

商号 アクモス株式会社
 設立 1991年8月23日
 資本金 6億9,325万円
 社員数 連結405名 (単体267名)
 主な事業
 ・ITソリューション
 IT基盤設計・構築
 SI・ソフトウェア開発
 システム運用・保守
 業務系アプリケーション開発
 地図情報提供サービス
 ・ITサービス
 情報処理サービス
 ビジネスプロセスアウトソーシング

■ 役員の状況 (2021年9月28日現在)

代表取締役会長 兼 CEO 飯島 秀 幸
 代表取締役社長 兼 COO 清川 明 宏
 取締役専務執行役員 石川 稔
 取締役専務執行役員 深作 耕 一
 社外取締役 (常勤監査等委員) 西山 達 男
 社外取締役 (監査等委員) 板垣 雄 士
 社外取締役 (監査等委員) 松尾 恭 志
 取締役 (監査等委員) 金子 登志雄

※第30回定時株主総会終了後の状況を記載しております。

■ 主な事業所

本社 〒101-0052
 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8
 神田小川町三丁目ビル
 TEL：03-5217-3121
 茨城本部 〒310-0015
 茨城県水戸市宮町一丁目2番4号
 マイムビル10F
 TEL：029-291-3410
 茨城開発センター 〒319-1112
 茨城県那珂郡東海村松2713番地7
 TEL：029-270-5555
 つくばオフィス 〒300-0847
 茨城県土浦市卸町一丁目1番1号
 関鉄つくばビル2F
 TEL：029-834-3391

■ 株式の状況 (2021年6月30日現在)

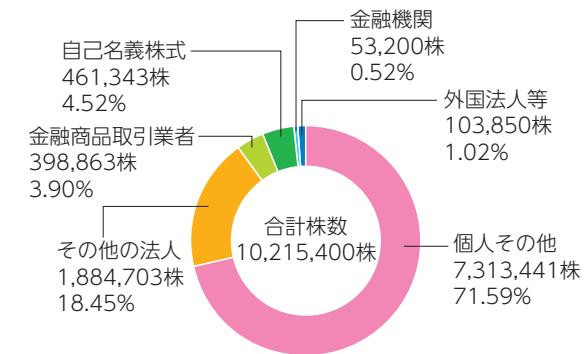
発行可能株式総数 32,300,000 株
 発行済株式総数 10,215,400 株
 議決権を有する株主数 6,977 名

上位10名の株主の状況

株主名	持株数 (株)
コンセーユ・ティ・アイ株式会社	1,770,000
飯島秀幸	1,010,400
アクモスグループ社員持株会	310,428
株式会社SBI証券	127,961
外池栄一郎	120,000
金子登志雄	96,000
SMBC日興証券株式会社	54,100
光通信株式会社	50,400
日本証券金融株式会社	48,300
楽天証券株式会社	47,400

※自己株式を除く発行済株式総数の上位10名の株主を記載しております。

所有者別株式分布状況



■ 株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月下旬
公告方法	電子公告 https://www.acmos.co.jp/ir/brief_note.html (電子公告により行なうことが事故その他やむをえない事情によりできない場合には、日本経済新聞に掲載して行ないます。)
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先※	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話：0120-232-711(通話料無料) 郵送先： 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

- 株券の電子化に伴い、株主様の住所変更、その他の各種手続きについては、原則として、証券取引口座を開設されている証券会社等で承ることになっております。
- 特別口座に記録された株式の各種手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部にお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境に配慮した用紙、インク
を採用しています。



証券コード：6888



本社
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8
神田小川町三丁目ビル
TEL：03-5217-3121
FAX：03-5217-3122



アクモス 株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目26番地8 神田小川町三丁目ビル
TEL：03-5217-3121 FAX：03-5217-3122 <https://www.acmos.co.jp/>

編集・発行 アクモス株式会社 経営企画管理部
制作 宝印刷株式会社